



「佐々木さんを支援する会」会報

ウブムエ

事務局 〒235-0041 横浜市磯子区栗木 1-22-3 / TEL 045-774-9861
洋光台キリスト教会内（蛭川明男牧師）／●世話人会代表 金子 敬
●事務局長 播磨 聡（広島キリスト教会 TEL 082-293-8683）

ニャルワンダ語で「ウブムエ」(ubumwe)とは、「一致」「調和」「和」を意味する。

広がる協働の喜び

佐々木 和之

ささき かずゆき

皆さまこんにちは。約3週間の一時帰国を終え、6月30日にルワンダに戻りました。それ以来、4年生の卒業論文の指導、1年生への平和学概論の講義や会議等で忙しくしています。今回の一時帰国では高知、横浜、東京、金沢、筑波等で報告や講演をさせていただき、多くの皆さまにジェノサイド20周年を迎えるルワンダの状況をお伝えすることができました。お世話になった皆さま、ありがとうございました。

今号は、日本国際飢餓対策機構からルワンダに派遣され、リーチとピース・インターナショナル・スクールの活動をサポートされている河合朝子さん、そして、私の妻の佐々木恵の寄稿が中心の紙面になります。私からは、最近の嬉しいニュースをお伝えします。

■豚の販売が始まりました！

前号でもお伝えしたキレヘ郡の二つの養豚組合で豚の販売が始まりました！まずカブゾ村の養豚組合は、生後約6カ月に達していた豚32匹を完売し、32万フラン（約5万円）の収入を得ました。この金額は、小学校の先生が手にする10か月分の給与に相当し、村の人々にはとても大きなお金です。一方、ルガンド村の養豚組合は、少し販売開始が遅れたものの、これまでに生後5～6カ月に達している29匹のうちの

16匹を販売し、16万フラン（約2万5千円）を手に入れました。

ジェノサイド20周年という節目に、加害者の家族と被害者の家族が共に汗して働いて、初めて協働の果実を手にすることができました。次号では、組合員の喜びの声をお伝えします。

■ピアスとリーチの協働

リーチはこれまで主にルワンダの東部県で活動してきましたが、今年5月22日～24日の3日間、南部県のニャンザ郡で「癒しと和解のセミナー」を実施しました。対象はジェノサイドの生存被害者である女性たちとジェノサイドの加害者を家族に持つ女性たち、計50名でした。

ニャンザ郡は私が所属するピアス（ルワンダのプロテスタント諸教派が協力して創設した大学）があるフィエ郡からバスで30分位の所です。今後、ピアスで平和学を学ぶ若者たちが、リーチが草の根で展開する癒しと和解の活動に密接に関わっていきけるように、ピアスの平和・紛争研究科とリーチとの共同プロジェクトの立ち上げに向けて動き出します。お祈りください。

■日韓の協働という夢に向かって

私は、韓国の方々との協働関係を深めていくこ

とを第4期の目標の一つに掲げてきました。ルワンダで平和を創るといふ難しい取り組みを、韓国の方々と共に祈り汗しながら進めていきたいのです。日韓の若者たちがルワンダで大湖地域の若者たちと出会い、彼らからチャレンジを受けながら、自分たちの間に横たわる問題・課題についても見つけ・話し合うプログラムができたらどんなに素晴らしい

でしょう。その夢に向かって強力なパートナーが与えられました。友人の韓国人宣教師、サンフーン・リーさん(本誌23号参照)が、専任教員としてピアスに関わる決意を固めて下さったのです！リーさんの本採用までにはまだいくつかの調整作業が残っていますが、私は彼こそ神様がピアスに派遣して下さった方だと確信しています。お祈りください。

河合 朝子

かわい あさこ

養豚トレーニングを通しての交流

日本国際飢餓対策機構 東アフリカ駐在スタッフ

リーチがキレヘ郡で支援している二つの養豚組合のリーダー18名を対象に、5月から養豚マネジメントに関するトレーニングを実施してきました。自分たちで養豚業を計画・運営できるように、生産頭数の予想、生産コストの計算の仕方、記録のつけ方などを重点的に学んできました。今後は月一回で組織とマーケティングに関するトレーニングを計画しています。

養豚において、豚の体重を定期的に測定することは大切な管理作業の一つですが、実行していない農家さんが大半です。理由としては、体重計がない、買うお金がないなど。そこで、トレーニングの一コマで巻尺を使って豚の体重を算出する方法を教えました。体重は胸囲と背骨の長さを測り、以下の公式に当てはめて計算します。体重(kg) = (胸囲(m))² × (背骨(m)) × 69.3。組合の方々には皆さん携帯電話を持っています。そこで、複雑な計算も携帯付きの計算機で簡単にでき

るだろうと思っていました。しかし意外にも計算機の使用方を知らない方が多く、手計算でやらざるをえませんでした。さらに、2乗と2倍の計算の違い、cmからmへの換算、小数点の就いた数字の計算などについて、みんなで教えあいながら答えを導き出していきました。とても熱気に満ちた楽しい学びの時になったのですが、面倒な計算だけに教室の中だけの知識で終わってしまわないかと少し不安でした。

翌朝、豚舎での日課を見にカブゾの豚舎に行くと、リーダーのセルディオさんが前日のトレーニングでもらった巻尺を手に、子豚を追い掛け回しているところでした。雄豚の計算を見せてもらおうと、手計算ゆえの間違いはありましたが、それでも前日に習ったことを早速実践している姿に感動し、それを彼に伝えました。2週間後、別のトレーニングのためにキレヘに戻り、再びカブゾの豚舎を訪れました。するとその日は、セルディオさんは巻尺を持ち出し、朝の作業を終えた仲間たちに測定と計算の仕方を教えていました。「2週間前は116Kgで今日は117Kg、一キロ増えたね」と言って、計算するのを覗いていた私と話し合いました。

このように、毎回熱心にトレーニングに足を運び、学んだことを日々の作業に生かしている組合の方々姿を見るたびに、リーチによる支援の終了後も、彼らが自立して養豚業を発展させていけるようにと祈らずにはおれません。



佐々木 恵

ささき めぐみ

ピアノカが吹ける！

みなさん、ご無沙汰しています。お元気でお過ごしでしょうか？今回は、私がルワンダに来た翌年(2006年)から関わっているピース・インターナショナル・スクール(以下P I S)での活動についてご報告いたします。

P I Sには、キガリ校とニャンザ校の二つの学校があります。私たちがキガリに住んでいた時にはキガリ校で、去年1月にブタレに越してきてからは、ニャンザ校で奉仕を続けています。ニャンザ校は、4年前に日本大使館の「草の根無償援助」で校舎が建ち、現在3歳児から小学4年生までの約280人が学んでいます。

これまでずっと、絵本の読み聞かせを中心に、簡単な日本語の童謡やわらべ歌を教えてきましたが、それに加え今、特に力を入れているのは音楽です。横浜の関東学院三春台小学校からだいぶ前にピアノカを頂いていたのですが、今まではいろいろな条件がそろわずに、それを十分に生かし切れずにいたのです。今、ニャンザ校の最高学年が4年生になり、ピアノカを教えるのにも適した年齢になりました。そこで、毎週水曜日に40分～1時間授業時間を頂いて、12名の4年生全員に指導することになったのです。目標は、「9月にバプテスト連盟のスタディーツアーの方々がいらっしゃったときに、ピアノカとハンドベルを演奏してお迎えする」です。今、この目標に向かって猛練習中です。ドレミファソラシドの音階指導から始めて、自分で作った紙鍵盤を持ち帰って、家でも練習しました。休み時間には、「主は素晴らしい」をドードミレーと音階付きで歌っている声を耳にします。そして今では全員が讚美歌「主は素晴らしい」を演奏できるようになりました！ハンドベルは、去年2月、支援会スタディーツアーの方々



がいらした時に演奏して下さり、その後、お土産がわりに置いて行ってくださったものです。お客様の演奏を実際に見た子どもたちは、このハンドベルの演奏のコツもすぐにつかんでしまいました。すると、この4年生の様子を見聞きしていた3年生も楽器演奏に興味を示しだしたのです。先々週からは彼らにも音楽の授業をはじめました。先週2回目の授業だったのですが、さっそく「主は素晴らしい」を音階で歌えるようになっていて、すでにハンドベルでの演奏もできるようになりました！普段の生活では、太鼓くらいしか楽器というものを経験しない子どもたちが、目を輝かせて歌い、演奏する姿は本当にうれしそうです。彼らには、「4年生になったらピアノカを教える」ことを約束しているのですが、彼らの輝くような興味をそがないように毎回の授業を大切に教えていきたいと思っています。

P I Sはこのように日本にいらっしゃるたくさんの方々といろんな形でつながっている学校です。もし皆さんがP I Sを訪問されることがありましたら、きっと、子どもたちがピアノカとハンドベルの演奏で大歓迎してくれると思います。どうぞ、P I Sの子どもたちが、心豊かに元気に成長しますようにお祈り下さい。

事務局からのお知らせ

- 6月12日～29日まで、佐々木和之さんは今年度最初の帰国をおこない、ジェノサイド20年を迎えたルワンダの人々を覚えて、各地で報告会をおこないました。
- 佐々木和之さんは11月中旬に今年度二度目の一時帰国をおこないます。「支援する会」が主催する帰国報告会は、11月10日に福岡の西南学院大学神学部ミッション・デープログラムとして開催します。
- 「佐々木さんを支援する会」のフェイスブックが立ち上がりました。「ルワンダの平和と和解のために」(<https://www.facebook.com/rwandawakai>)。ぜひ、ご覧下さい。
- 事務作業簡素化のため、すべての支援者に一律に「振替用紙」を同封させていただいています。請求ではありません、ご了承ください。● 郵便振替口座 00250-0-112907 佐々木さんを支援する会
- 佐々木さんを支援する会HP (ホームページ) <http://rwanda-wakai.net/>

< 佐々木和之さんを支える仕組みについて >

佐々木和之さんの働きはこの10年で大きく広がってきました。佐々木さんはルワンダでの働きを日本バプテスト連盟(以下、バプ連盟)の「国際ミッション・ボランティア」としてスタートさせ、現在も続いています。バプ連盟では、フルサポートの宣教師だけではなく、活動費のみをサポートする国際ミッション・ボランティアを継続して派遣し、佐々木さんはその第一号です。この形でのサポート体制は、佐々木さんご自身にとってもバプ連盟の枠を超えた広がりの中で活動できるメリットがあります。この草の根的な運動を支持し佐々木さん家族の生活費部分をサポートするために立ちあげられたのが、この「佐々木さんを支援する会」です。

ルワンダへの派遣当初は、バプ連盟は佐々木さんの活動費(癒しと和解のセミナー開催費、車両の維持費、保険料等々を含みます)を、支援する会は生活費を、とシンプルに分けていましたが、働きの広がりにつれて、支援する会が活動の一部分を支援するようになってきました。例えば、償いの家造りに関しては資材費を担ったり、現在では、養豚プロジェクトの支援やPIASSの学生の奨学金の一部、またピースクラブの活動支援なども、支援する会が行っています。もちろん、支援の中心が生活費であることは変わりません。

バプ連盟が支援する活動費は、連盟の国外伝道費として予算化されています。国外伝道費は日本バプテスト女性連合が推進する世界バプテスト祈禱週間で献げられた献金によって、なりたっています。一方、支援する会が支援する部分は、バプ連盟の教会員だけではなく、多くの教派・教会の方たち、学校関係の方たち、平和と和解の実現を願う多くの方たちからの献金によって、なりたっています。どちらも佐々木さんのルワンダでの活動を支えるために必須な献金であり、どちらが欠けても成り立ちません。それは、一つの組織だけではできないほどの豊かな働きの出来事を、ともに分かち合えるということでもあると思います。

こういう仕組みであることをご理解いただいて、ぜひ、継続したご支援をお願いいたします。

(佐々木さんを支援する会 世話人 中條智子)

- 世話人会 金子 敬(古賀教会牧師)、中條智子(三島教会牧師)、蛭川明男(洋光台教会牧師)、村上千代(日本バプテスト女性連合幹事)、播磨 聡(広島教会牧師)